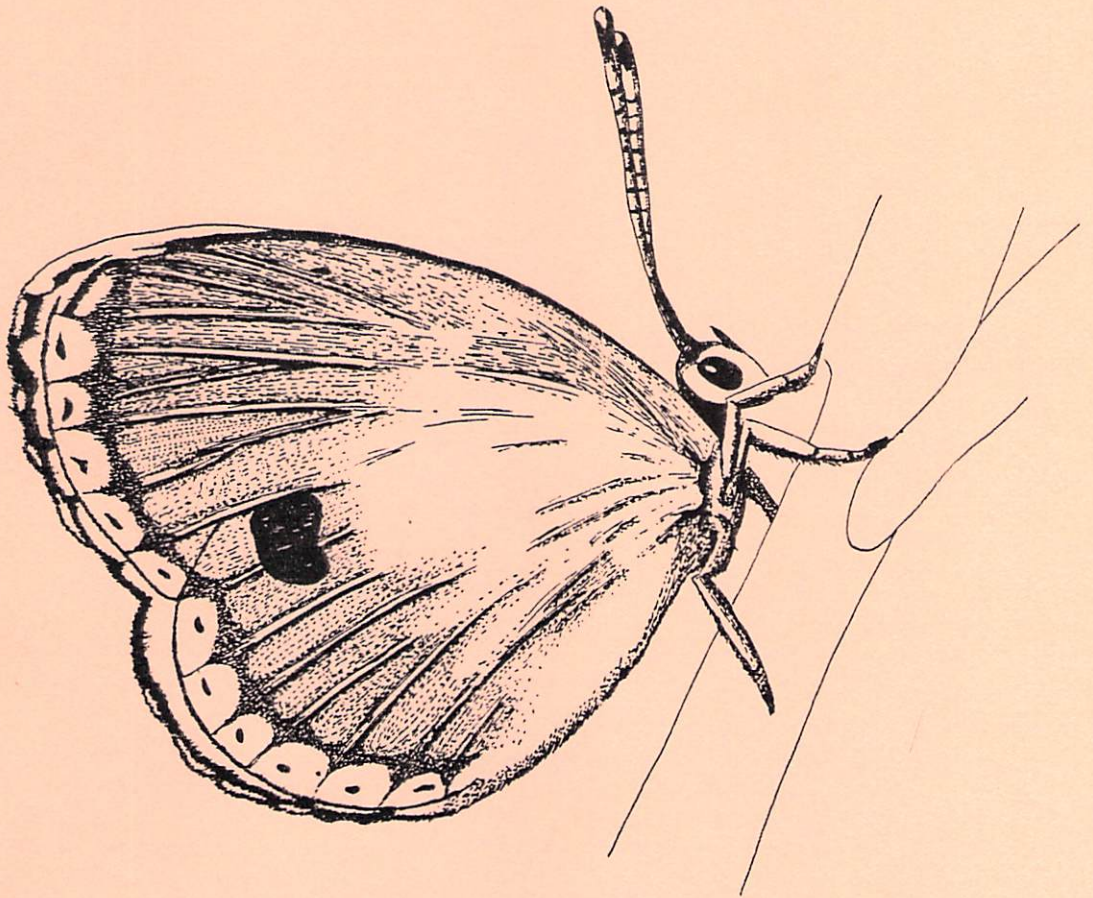


HITOTSUBATAGO No. 4

# ヒトツバタゴ



*Pithecopa fulgens tsushimanus* Sirôzu&Urata

対馬生物研究会

December 1986

対馬のシンボルマークとしての鳥花木の選定について  
浦田明夫

昭和29年2月、NHK等が共同主催して、都道府県を単位とした「郷土の花」の選定が企画された。その郷土の花の選定基準として、

1. 郷土の誇りとする花
2. 郷土の人に広く知られ、愛されている花
3. 郷土の産業、観光、生活などに関係の深い花
4. 郷土の文学、伝説等に結びついている花
5. その地方だけに見られる珍しい花

となっている。長崎県では同年3月、選定委員会をもち、国立公園雲仙の春を飾り、広く県民にも親しまれているウンゼンツツジを選定している。

また、昭和47年、毎日新聞社が創立80周年記念事業として、あわせて緑化推進運動の一環として都道府県の木を選定することを提唱し、長崎県では県の花木としてツバキを万場一致で決定した。花の美しいこと、五島にはツバキの原生林や巨木があり、ツバキ油の産額も多いことなどの理由による。さらに、もう一つ他県に例をみない県の林木としてヒノキも選定している。また動物は県獣としてキュウシュウジカ、県の鳥としてオシドリを選んでいる。一方、長崎市は、市の花としてアジサイ、市の木としてナンキンハゼを選定している。そこで、対馬あるいは対馬各町で花木の選定がなされているかどうかの現状を知るため、各町教育委員会にアンケート調査を行った。

「調査内容」 昭和61年1月20日調査

1. シンボルイメージとしての町の動植物を指定しているか。
2. 指定している場合は、種名、指定年月日、指定理由を表に記入する。
3. 指定していない場合は、今後指定の予定があるかどうか。

4. 3で指定予定がある場合は、どのような種を指定する予定か。

回 報

町 \ 項	鳥	花	木
巖原	鳥、花、木について指定の予定		
美津島	メジロ	ツツジ	ツバキ
豊玉	コウライキジ	ゲンカイツツジ	クヌギ
峰	指定の予定はない		
上 県	指定の予定はない		
上対馬			ヒトツバタゴ

なお、巖原町は昭和67年が町制30周年にあたり、その記念事業の一つとして巖原町の花木鳥を制定するため、「町報いづはら」で広く町民から公募しているが、このほどこれが内定し、7月3日の記念式典で発表され、制定されることになっている。町民から多数の応募があったが、他町ですでに選定されている種は一応除外して選定されている。鳥ではホトトギス、ウグイス、カワセミなどが最終まで残ったが、結局はホトトギスにおちつき、花はフジ、木は宗家にも由緒のあるキリに決定している。

本会で、こうした調査を行ったのは、自然保護活動の一環としてこれらの生物を前面にたて、今後、自然保護活動を推進するという会の方針に沿って行ったものである。なお、本会では、会独自で対馬のシンボルイメージとしての生物の選定を行いたいと考えている。そして、それが各町から協力が得られるよう呼びかけたいと思っている。

最後ではあるが、アンケート項目等の作成に協力された平山俊章会員、  
またアンケートに快く応じていただいた対馬各町教育委員会に厚くお礼申  
しあげる。  
( 県立対馬高等学校 )

HITOTSUBATAGO NO. 4

---

カケスのなきまね

---

浦田明夫

カラス科の鳥類には、キュウカンチョウやハシボソガラスなど人や他の動物のものまねをすることが知られている。カケスもまたその例にもれない。

筆者が環境庁から許可「許可番号449」を得てしかけておいたカスミ網に、1羽のツシマカケスがかった。昭和60年10月9日捕獲し、同年10月23日に放鳥するまで飼育した。飼育にはブナ科植物2種（ドングリ類）を与えたところよく食べ、ニワトリの飼料も補助的に与えておいた。

捕獲後数日して庭先でトビの声がしたので見てみたが、トビの姿は見あたらない。しかし、ピーヒョロという声だけは聞こえてくる。鳴き声に近づいてみると、なんとカケスがピーヒョロと鳴いているのである。それから、飼を与える時、ピーヒョロと言うとそれに相づちを打つように鳴き返すのである。これは、幼鳥の時から周りで鳴くトビの鳴き声をまねたものであろうが飼育中は、カケス本来の鳴き声はまったく聞かれなかった。今は亡き長崎県生物学会会員の林敏雄氏もカケスのトビの鳴きまねを記録しているようである。

「参考文献」

1982 林 敏雄 鳥よもやま話 野鳥ながさき NO. 2 P. 8  
( 県立対馬高等学校 )

コクマルガラスの記録  
 浦田明夫

コクマルガラス *Corvus monedula* はハトくらいの大きさの小形のガラスで、これまで対馬での記録は筆者の報告他が若干あるだけである。本種には、淡色型と暗色型の2種が知られ、淡色型は後頸、頸側胸腹は白くカササギに似た感じがする。暗色型は後頸から頸側がやや淡色である。ミヤマガラスの群中に見られるのが普通で、特に淡色型はよく目立つが、暗色型はミヤマガラスに比べて小型であることから注意しておけばすぐわかる。このコクマルガラスが渡来していることを、厳原町下原の三山 忠氏から報告を受け、早速現地を調査した。

○1986年2月1日

淡色型	2	暗色型	/	厳原町土富
	/		3	小茂田浜
	/		8	椎根
	/		3	小茂田

○1986年2月9日

淡色型	/	暗色型	//	厳原町久根田舎
			2	椎根
			2	美津島町今里

こうした例をみると、この時期にはかなりのコクマルガラスが渡来していたものと思われる。近年本種は、各地でもよく観察されているときく。

最後に、コクマルガラスの情報を提供いただいた三山忠氏にお礼申し上げます。

「参考文献」 ・1977 浦田明夫 対馬の鳥類雑記 その1  
 長崎県生物学会誌 NO.13 P.43~47  
 ( 県立対馬高等学校 )

ホオジロの擬傷

浦田明夫

対馬のホオジロは *Emberiza cioides ijimae* STEGNER の学名で示され、和名はイイジマホオジロと呼ばれる。ホオジロより の栗色部が濃いことで別亜種とされており、対馬、宍岐に生息するものは上記亜種に含まれる。

ホオジロは全国の原野、畑、雑木林に多く見られ繁殖している。繁殖期には、なわばりを持ち、その区域内のよく目立つ高い樹の枝、電線、アンテナなどに止まり、チッチッチロロとさえずる。繁殖期は長く、4月から8月まで及ぶ。山麓や原野の低い樹の上、草の間に葉や根などを材料に 形の比較的雑な巣をつくる。卵数は一腹3〜6個であるが、一番子より二番子、二番子より三番子になるほど、一般に卵数が多くなるようである。

○1985年5月21日 厳原町日吉 堂巢二羽

上記の巣を発見したとき、♂親が巣の中にいたが人の気配で巣を飛び出し余り遠くへは行かず、樹の枝に止まり、警戒しているようすであった。そのうち、巣の中のヒナが飛び出して親の鳴き声のする方へ移動した。すると、親鳥は翼をひろげ、擬傷しながら注意をひかせる行為をすると同時に、ブッシュの中へヒナを誘っているようであった。

こうした擬傷は、イカルチドリやコチドリなどにみられるものと同様に知能的なもので、本能的な反射による動作であろう。

この巣を発見され、教えていただいた対馬高校堀教諭は野鳥の研究家でもあり、キャリア豊かな方であるが、ホオジロの擬傷行動はまだ観察したことがないという。最後ではあるが、種々ご教示いただいた堀教諭へ厚くお礼申し上げます。

( 県立対馬高等学校 )

---

ヤマシヨウビンの記録

---

浦田明夫

ヤマシヨウビン *Hakcyon pileata* は少ない旅鳥であるが、琉球列島や対馬では比較的良好に観察される非常に色あでやかな鳥である。はじめて見る人はそのあでやかさに驚嘆するほどである。これまで筆者は4回観察することができた。普通、川、水たまり、沼、水田、干がた等に近い枝や電線等にとまり、カエルやカニなどを捕食する。飛ぶ時、翼の紺色の中の大きな白斑はよく目立ち、また赤いくちばしが特徴的である。

1. 1983年5月8日 (雑木林) 巖原町豆般
2. 1986年5月10日 (干がた) 美津島町洲藻
3. 1986年5月11日 (雑木林) 上県町佐護
4. 1986年5月25日 (水田) 美津島町洲藻

( 県立対馬高等学校 )

---

対馬におけるムクドリの記録

---

浦田明夫

ムクドリは、長崎県では比較的良好の出合いの少ない鳥で、筆者の調べた範囲では対馬からの報告はないようである。先般 (1986年4月5日) 上県町で鳥類調査を行った折、はからずもムクドリの群を確認することができたので記録しておく。

1986年4月5日 / . 上県町越高 17羽  
志多留 20羽  
田ノ浜 9羽

なお、この日は望遠レンズを所持していなかったので、標準レンズを使って電線に止っている17羽 (越高) を撮影し記録にとどめた。

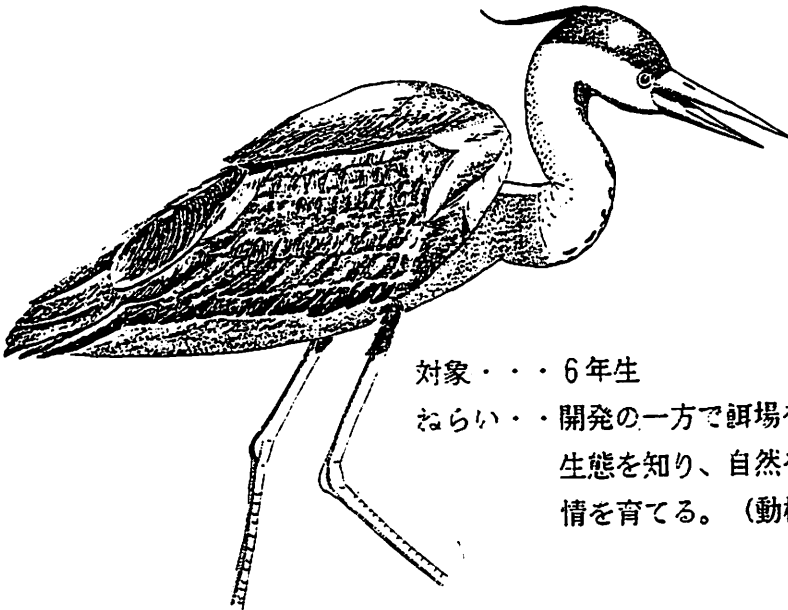




# 「アオサギよいつまでも」

平山 俊章

\*今年活動が少なかつたため、研究の成果らしいものはありませんでした。そこで、アオサギを題材とした自作道徳資料を使用しての、授業の実践報告をすることにします。なお、この記事は、昭和61年12月1日発行の「長崎県教育会報」第37号に掲載されたものです。



対象・・・6年生

ねらい・・・開発の一方で餌場を失っていくアオサギの生態を知り、自然を大切にしようとする心情を育てる。(動植物愛護)

## 「アオサギよいつまでも」

対馬の美津島町樽ヶ浜は、あそ<sup>1)</sup>う湾に面した小さな集落です。かつては、上島と下島を結ぶ渡海船の発着港としてにぎわいのあったところです。

この地区からは、約50名の小学生が、車一台分しか通れない危険な道を登校しています。その道をはさんで、一方には、ひらの山があり、他方には広い湿地が広がっています。

ひらの山には、毎年二月末になるとアオサギの群れが必ず集まってきます。このような場所は、九州には三ヶ所<sup>2)</sup>しかありません。

アオサギは、全体的に灰色がかつたツルに似た鳥です。大きな羽を広げてふわりと空をまう姿には、いつも心をひきつけられます。

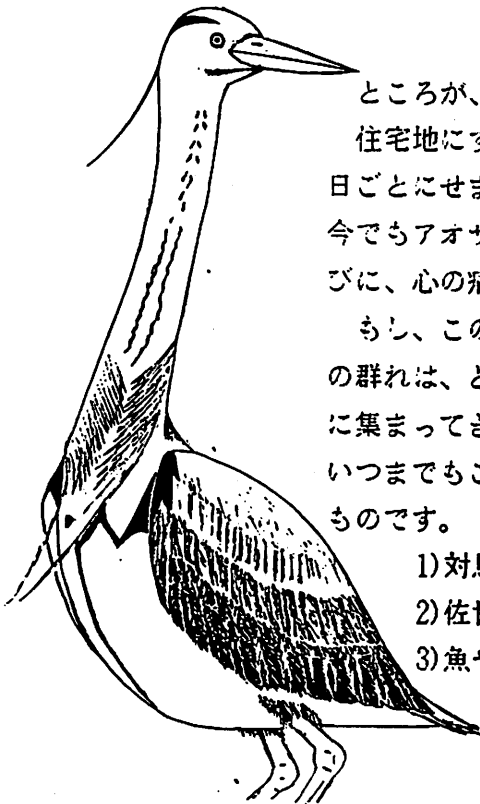
三月になると夫婦で巣作りを始めます。この山だけで50を越える巣が出来上がります。それは、まるで鳥の団地のようです。

卵を生んでからは、交替で温めます。おすが餌<sup>3)</sup>取りに出かけた後、めすは長い時で6時間あまりも温め続けることもあります。やがて、おすが帰ってくると、めすは、空に向かって一声力強くクワッと鳴きます。それは、「よく無事で帰ってきてくれましたね。」と、喜びの気持ちを表しているように聞こえるのです。

ひな鳥の誕生とともに、親鳥の交替はあわただしくなります。ひなに与える餌を取ってこななければならないからです。

三カ月もたつと、ひな鳥は、もう親鳥と変わらぬぐういに成長し、まず、飛ぶことを覚えます。飛ぶことを覚えたひな鳥は、次に、すぐふもとの湿地で餌の取り方を覚えます。こうして、だんだん一人前になっていくのです。

アオサギが、このひらの山に集まってくるのは、外敵が侵入しにくい高い木が残されていることと、ひな鳥が、餌を取る練習場としての湿地があったからなのです。



ところが、この湿地が、突然埋め立てられ始めたのです。住宅地にするためと、せまかった道を広くするためです。日ごとにせまくなっていく湿地には、夕暮れ時ともなると今でもアオサギたちの姿がみられます。そんな姿を見るたびに、心の痛む思いがするのです。

もし、この湿地が埋め立てられてしまったら、アオサギの群れは、どうなるのでしょうか。来年もまた、ひらの山に集まってきてくれるのでしょうか。できることならば、いつまでもこの地に集まり、その勇壮な姿を見せてほしいものです。

- 1) 対馬の中央部に位置するリアス式海岸の美しい海
- 2) 佐世保・鹿児島
- 3) 魚やカニなど

上記の自作教材をもとに、次のように学習を展開しました。

まず、導入では、身近な鳥に続いてアオサギのスライドを見せ、関心を高めました。次に、教材文を読ませたあと、生態を知らせるうえで、さらにスライドをみせました。ここまできて時間にせまられ、十分な意見の出し合いができません。感想文を書かせました。感想文には、次のようなものがありました。

- ◎……子育ては、とても大変だと思った。人間は、湿地など、あまり埋め立てをしないようにしなければならぬと思う。……やっぱり鳥も生きなければならぬから、人間も協力しなければいけないと思う。(神宮)
- ◎アオサギが、集団でひなを育てるようなめずらしい所が、ぼく達の身近な所にあるなんて知らなかった。母鳥が苦勞して子どもを育てるのを見て、あの湿地は残すべきだと思った。しかし、この対馬でも、自然がくずされていくのは、悲しいとおもう。(川上)

この授業は、道徳の授業としては、全くの失敗でした。アオサギにとっていかに湿地が大切なものであるかを説明することに多くの時間を費やしすぎて、主題にせまる論議のないままに終わってしまいました。道徳の授業である以上もっと、主題を追求する過程を大切にすべきだったとおもいます。

さて、論議する段にはいたりませんでした。私の意図していた意見が、子どもたちの感想の中に見られました。それは、アオサギを守るために湿地を残すべきだとする意見と、道路の拡張は子どもたちの安全のために必要なのではないかという相反する意見です。

私のねらいとしては、その二つの意見について、授業で論議していきながら人間と自然との共存の必要性に気づかせたかったのです。具体的には、開発の必要性を認め合うとともに、一方で生活圏をうばわれていくアオサギのために埋め立てを最少限にとどめ、いくらかでも湿地を残したらよいのではないかという意見がでるところまで、授業を深めていきたかったのです。

今回、そこまで展開できなかったのは、まず、導入でのスライドの枚数が多かったためでしょう。アオサギの写真だけでよかったようです。それに、教材文が長いことも原因です。事前に読ませておいたり、さらに文章を精選しておく必要もありそうです。

こうした反省のもとに、再度、この教材に挑戦してみたいと思います。

(美津島町立鷓鴣小学校)

木坂海神社社叢にヒゼンマユミ 佐伯正 発

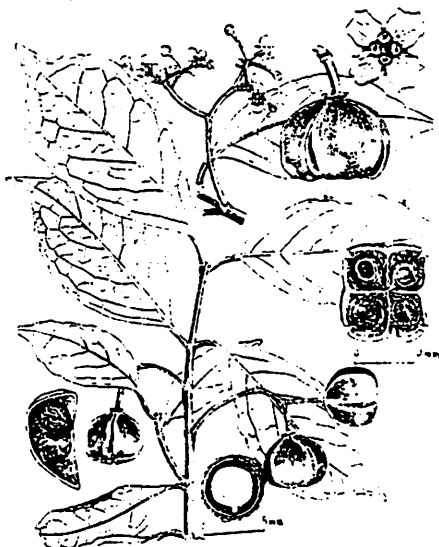
木坂神社の社叢には海辺の社務所から奥の石段付近まで、クロマツの大木がみごとである。(最近切られた新しい切り株が3株ほどあったが、松くい虫のためではないかと心配である。) 松林の下には、ツワブキが一面に黄花をつけて、いちだんと美しい。

社殿を取りまく、この原始林の主な樹種は、クロマツのほかスダジイの老木やオガタマノキ、ヤブツバキ、タブ、

スギ、サカキ、ヒサカキ、ハマビワ、クロキ、カクレミノ、トベラ、クスノキ、ケヤキ、ヤブニッケイ、ヤツデ、イヌビワ、イヌシデ、ノグルミ、ハマセンダンなどであるが、この中に対馬ではめずらしい / 本の木を見つけた。(理科教育協会主催の夏季現地観察会のとき) さっそく外山先生にみていただき、この木がヒゼンマユミであることを確認した。樹形や樹皮が、サカキやヤブニッケイなどに似ているため、目立たず、これらと混生して気づきにくい。果実はマサキやマユミに似て特徴がある。

外山三郎著「長崎県の天然記念物」によると、明治39年に大村の千葉三郎氏が 早市の城山で発見し、牧野先生によって肥前に産するマユミという意味でヒゼンマユミと名づけ、その学名は発見者の姓を記念して、*Euonymus chibai* MAKINO と学界に発表された。と記述している。

この木がどうして木坂神社の社 に / 本だけなのか興味をもったので、去る / / 月24日に社叢に立ち入り調査した。本殿正面の石段左側に2本



ヒゼンマユミ (図鑑より)

右側に3本、野鳥の観察道入口付近に5本、計9本をせまい範囲に確認した大きいもので幹のまわりが約25cm、高さが4.5m、小さいものは高さが30cmほどであった。

ヒゼンマユミは一般に高さ5mほどの小 木で（棟早市城山公園のヒゼンマユミは特別大きく、幹のまわりが2mをこす高木である。）同じニシキギ科の他のマユミ類とはことなり常緑である。樹幹は黒かっ色をし、枝は緑色で平滑、葉には柄があり、濃緑色をし対生、長卵形で先がきゅうにとがる。基部は細まり縁には上 $\frac{2}{3}$ に低い鋸歯がある。質はやや厚く平滑で、長さは10cm内外、春、葉腋からしゅうさん花序をだし、淡緑色の小花を開く。四稜形をした果実は、秋から冬にかけて黄色に熟し、やがて裂けて朱紅色の種子があらわれる。

ヒゼンマユミは暖地に生じ、現在までの発見地は鹿児島、大分、福岡（沖の島）、沖縄、山口、南朝の小島、県下では 早のほか、島原半島の山田、北高の湯江、森山、飯盛、そして大村で見つかっている。

対馬のニシキギ科植物としては、(1)ツルウメモドキ (2)テリハツルウメモドキ (3)オオツルウメモドキ (4)マユミ (5)コマユミ (6)ツリバナの6種が「対馬の生物」に記録されている。もしかすると、その木なら、あそこで見た。ここで見たと言われる方があるかも知れない。見かけられた方があれば御一報願いたい。

ところで、この社 のヒゼンマユミが天然のものか、人為的に植樹されたものか興味を覚える。一見サカキに樹形や樹皮の色が似ているので、かつてだれかが、どこからか持ち帰って植えたものが増えているのではないかと、わがままな想像もできる。木坂神社の社叢は、野鳥の森としてよく知られるようになったが、植物の方にももっと関心をもってほしい。参拝道や境内の主な樹木に名札でもつけてはどうだろうかと提案したい。

初冬の空は今にも降り出しそうで、風はつめたかったが、野鳥の観察道を

落ち葉を踏みふみ、紅葉や黄葉をながめ、ヒヨドリの声を聞き、キジバトやコウライキジに出会い、楽しいヒゼンマユミの調査だった。

( 巖原町立久田小学校 )

HITOTSUBATAGO NO. 4

ツレサギソウの発見

国分英俊

5月11日の対馬縦断観察会の折、ツレサギソウが発見されたので報告しておく。場所は、上県町内の山頂付近の草原で2株が国分たかねにより発見された。ツレサギソウは、中島一男（植物学雑誌 S17）が久原で発見したのが最初のように今回の自生地は2番目の記録となる。

島内では大変めずらしいラン科植物で、私も見るのははじめてであった。自生地は、陽がよく当たるススキの草原であり、開花期によほど注意しないと発見しにくいであろう。

ツレサギソウ

北海道から九州までの山野の林内、あるいは向陽の湿地に生える多年草で、冬期は地上部はかれる。5月中旬～6月上旬まで長い白い花を数十咲かせる。

( 巖原町立巖原中学校 )

志多賀川流域の水生昆虫  
小宮秀光

昭和6/年2月から同3月までに調査した志多賀川流域の水生昆虫の記録を報告する。

採集方法は、小石の上部や下部に付着しているものをピンセットあるいは、網で行った。小石の層だけの採集なので見逃した種も多い。厳密な採集方法ができていないのが残念である。今後、上流、中流、下流によるすみわけの実態調査も必要だろう。

「蜉蝣目」

(ヒラタカゲロウ科)

◎ヒラタカゲロウ属

・エルモンヒラタカゲロウ (多)

(モンカゲロウ科)

◎モンカゲロウ属

・モンカゲロウ

(フタオカゲロウ科)

◎ヒメフタオカゲロウ属

・キョウトヒメフタオカゲロウ  
けい流に多く大型である。

(トビイロカゲロウ科)

◎トビイロカゲロウ属

・ヒメトビイロカゲロウ

個体数は非常に多く、地面あるいは地中をはいまわっている。泥まじりの小石層に特に多い。

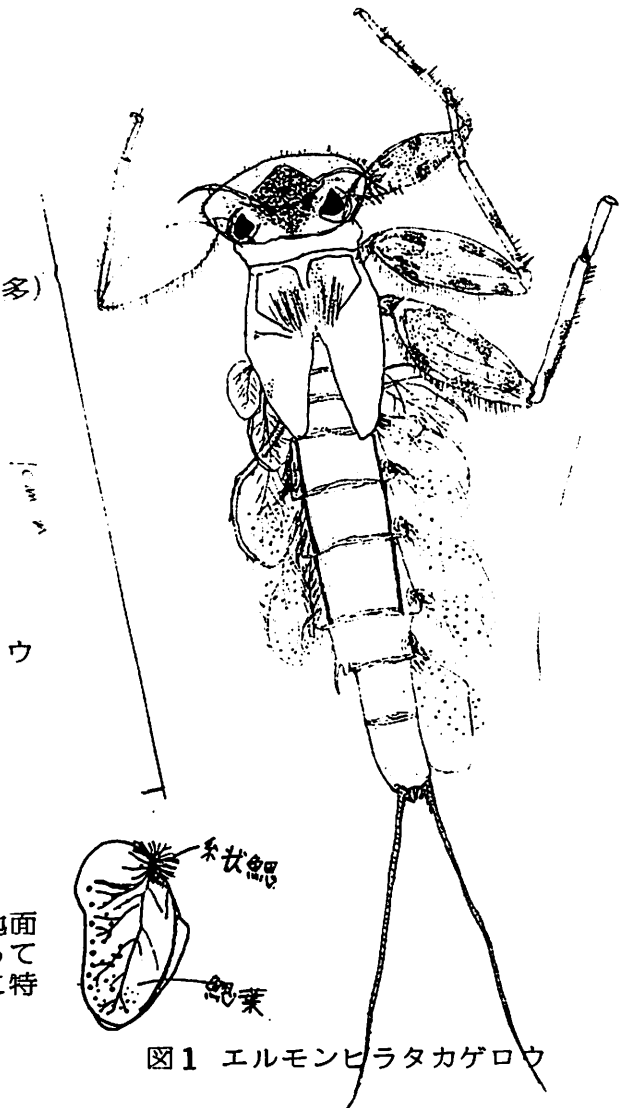


図1 エルモンヒラタカゲロウ

(マダラカゲロウ科)

◎マダラカゲロウ属

- ・種の同定 (未)

「横翅目」

(カワゲラ科)

◎カワゲラ属

- ・クロヒゲカワゲラ  
けい流に多い

◎フタツメカワゲラ属

- ・ヌエキフタツメカワゲラモドキ
- ・小石に泥層のある所でよく見かける。

◎ミドリカワゲラ科

- ・種の同定 (未)

「広翅目」

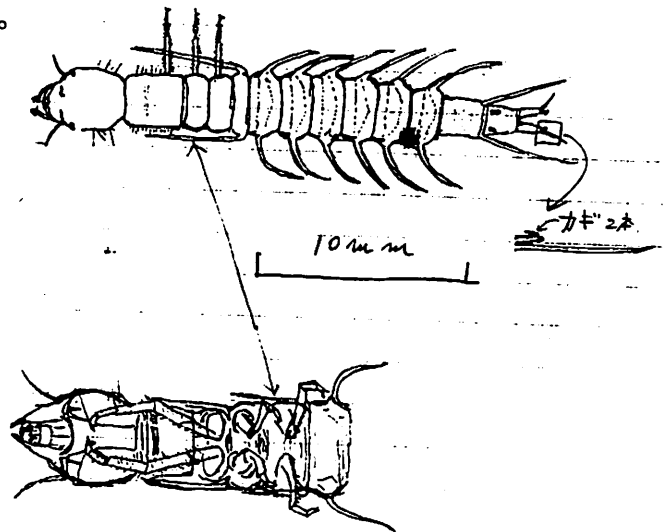
「ヘビトンボ科」

- ・ヘビトンボ
- ・タイリククロスジヘビトンボ

この2種はすみわけしているようすがない。2種とも上流より下流でよく見かける。

図2 タイリククロスジヘビトンボ

円すい状突起の基部  
があい離れている



( 峰町立志多賀中学校 )



対馬の蛾・分布資料(1) 境 良 朗

対馬の蛾類についての報告は、現在まで二百数十編に達している。特に、渡辺 徳 (対馬の蛾類 1980) 氏および MOTHS OF JAPAN (井上ほか、1982) によって分布種数は飛躍的に増大した。/ 500 種近くが公表されているが、さらに調査が進めば 2000 種前後に落ちつくものと思われる。

筆者は、蝶類調査のかたわら、わずかな時間であるが蛾の採集を行ってきたが、今回は / 977 年 ~ / 982 年までに採集したものの中から種名が判明したものについて報告しておきたい。前記の MJ 発刊後も次々と日本未記録種や新種が発見されているのが現状であるから、当然筆者の手もとにも同定できない種が残されている。

◎ 採集目録

○ 82-9-12 とは、1982 年 9 月 12 日のことである。

○ 採集地について

下県郡美津島町 賀谷 (G) : GAYA

芦浦 (Y) : YOSHIGAURA で表した。

○ 特に採集者を記していないのは、すべて筆者採集・保管による。

○ 学名および和名は、MOTHS OF JAPAN (井上ほか、1982 講談社) に従った。和名のあとに ( 図版ページ・解説ページ ) を付した。

TORTRICOIDAE ハマキガ科

(1) *Epiblema foenella* Linnaeus ヨモギネムシガ (28・134)

81-9-13 (G) / ex 82-9-7 (Y) / ex

82-9-8 (G) / ex

ZYGAENIDAE マダラガ科

(1) *Eterusia aedea* Clerck オキナワルリチラシ (33・292)

81-9-23 (G) / ex

- (2) *Balataea octomaculata* Bremer ヤホシホソマダラ (32・294)

82-6-10 (Y) / ex

LIMACODIDAE イラガ科

- (1) *Latoia sinica* Moore クロシタアオイラガ (34・300)

82-6-16 (Y) / ex

THYRIDIDAE マドガ科

- (1) *Rhodoneura vittula* Guenee マダラマドガ (35・305)

82-4-25 (Y) / ex

PYRALIDAE メイガ科

- (1) *Pattissa fulvosparsa* Butler キボシオオメイガ (36・308)

82-4-29 (G) / ex

- (2) *Scirpophaga* sp. シロオオメイガの一種 (一・308~309)

81-9-13 (G) / ex

- (3) *Japonichilo bleszynskii* Okano チャバネツトガ (37・318)

82-6-10 (Y) / ex おそらく対馬新記録

- (4) *Catachena alysoni* Whalley クロスカシトガリノメイガ (38・328)

82-5-4 (Y) / ex

- (5) *Ancylolomia japonica* Zeller ツトガ (38・326)

82-6-6 (Y) / ex

- (6) *Hedylepta misera* Buler ヒメクロミスジノメイガ (39・340)

82-9-9 (G) / ex

- (7) *Goniorhynchus exemplaris* Hampson クロスノメイガ (39・341)

82-5-12 (Y) / ex

- (8) *Pleuroptya chlorophanta* Butler ホソミスジノメイガ (40・344)

81-9-16 (G) / ex

- (9) *Sylepta taiwanaris* Shibuya タイワンモンキノメイガ (40・344)

82-6-7 (Y) / ex

- (10) *Palpiila inusitata* Butler ヒメシロノメイガ (40・346)

81-9-23 (G) / ex

- (11) *Circobotys aurealis* Leech キベリハネボソノメイガ (41・351)

82-5-23 (Y) / ex

- (12) *Maraca testulalis* Hubner マメノメイガ (41・352)

81-9-23 (G) / ex

- (13) *Herpetogramma rudis* Warren マエキノメイガ (42・353)  
 81-9-23 (G) / ex
- (14) *Margaritia sticticalis* Linnaeus ヘリキスジノメイガ (42・356)  
 82-9-5 (Y) 2exs 82-9-12 (G) / ex 対馬新記録
- (15) *Uresiphita* sp. (42・357)  
 82-9-8 (G) / ex
- (16) *Ostrinia palustralis* Hubner ユウグモノメイガ (43・362)  
 81-9-9 (G) / ex
- (17) *Eulophopalpia pauperalis* Leech フタスジツヅリガ (44・375)  
 82-8-3 (G) / ex
- (18) *Hypsopygia kawabei* Yamanaka ウンモンマルバシマメイガ (45・381)  
 82-9-5 (Y) 2exs
- (19) *Orthopygia glaucinalis* Linnaeus フタスジシマメイガ (46・383)  
 82-9-5 (Y) / ex
- (20) *Salebria semirubella* Scopoli アカマダラメイガ (47・393)  
 82-9-12 (G) / ex 82-6-10 (Y) / ex
- (21) *Yezobotys* sp. (44・368)  
 82-6-10 (Y) / ex

DREPANIDAE カギガバ科

- (1) *Auzata superba* Butler ヒトツメカギバ (51・416)  
 81-9-18 (G) / ex
- (2) *Macrocilix maia* Leech モンウスギヌカギバ (51・416)  
 82-6-8 (Y) / ex
- (3) *Oreta loochooana* Swinhoe オキナワカギバ (52・417)  
 81-9-16 (G) / ex

THYATIRIDAE トガリバ科

- (1) *Epipsestis ornata* Leech ムラサキトガリバ (54・423)  
 採集年月日不明 (Y) / ex

GEOMETRIDAE シャクガ科

- (1) *Timandromorpha discolor* Warren ノコバアオシヤク (57・431)  
 82-9-5 (Y) / ex
- (2) *Diplodesma ussuriaria* Bremer ナミスジコアオシヤク (59・437)  
 81-9-9 (G) / ex
- (3) *Comibaena diluta* Warren ヨツテンアオシヤク (60・439)

- 81-9-23 (G) / ex
- (4) *Hemistola veneta* Butler コシロスジアオシヤク (60・440)  
81-9-13 (G) / ex, 81-9-16 (G) / ex
- (5) *Timandra* sp. ベニスジヒメシヤクの一様 (61・442~443)  
おそらくウラベニスジヒメシヤクと思われる。
- (6) *Somatina indicataria* Walker ウンモンオオシロヒメシヤク (61・444)  
82-6-5 (Y) / ex
- (7) *Problepsis eucircota* Prout ツシマオオシロヒメシヤク (61・445)  
82-9-9 (G) / ex 82-9-13 (G) / ex
- (8) *Scopula* sp. ヒメシヤクの一様 (63・446~456)  
82-5-4 (Y) / ex
- (9) *Scopula umbelaria* Hubner スミレシロヒメシヤク (62・448)  
82-4-25 (Y) / ex 82-4-29 (Y) / ex  
対馬新記録。北海道、本州の北方から中部の山地帯に分布する。
- (10) *Scopula ignobilis* Warren ウスキクロテンヒメシヤク (63・456)  
81-9-23 (G) / ex 82-8-3 (G) / ex
- (11) *Idaea muricata* Hufnagel ベニヒメシヤク (63・457)  
81-9-16 (G) / ex
- (12) *Carige scutilimbata* Prout ホソバトガリナミシヤク (66・467)  
77-4-26 (G) / ex 77-5-26 (G) / ex  
81-9-14 (G) / ex
- (13) *Orthonama obstipata* Fabricius トビスジヒメナミシヤク (67・473)  
77-5-26 (G) / ex 81-9-9 (G) / ex  
82-5-4 (Y) / ex
- (14) *Horisme vitalbata* Denis & Shiffermuller ボタンヅルナミシヤク  
82-4-25 (Y) / ex 対馬では個体数は少なくない。 (79・517)
- (15) *Melanthia procellata* ナカジロナミシヤク (79・518)  
81-9-23 (G) / ex 82-5-12 (Y) / ex
- (16) *Cassyma deletaria* Moore ヤマトエダシヤク (82・523)  
77-5-26 (G) / ex 77-5-27 (G) / ex
- (17) *Ninodes watanabei* Inoue ワタナベヒメエダシヤク (82・523)  
82-6-6 (Y) / ex
- (18) *Plesiomorpha punctilinearis* Leech モンオピオエダシヤク (83・526)  
82-4-25 (Y) / ex
- (19) *Synegia esther* Butler クロハグルマエダシヤク (84・527)  
81-9-16 (G) / ex

- (20) *Semiothisa defixaria* Walker フタテンオエダシヤク (85・529)  
77-5-1 (G) 2exs
- (21) *Semiothisa hebesata* Walker ウスオエダシヤク (85・529)  
81-9-9 (G) /ex
- (22) *Semiothisa temeraria* Swinhoe クロモンオエダシヤク (85・530)  
77-5-25 (G) 5exs 77-5-26 (G) /ex  
77-5-27 (G) 2exs
- (23) *Semiothisa normata* Alpheraky ウスキオエダシヤク (85・530)  
81-9-23 (G) /ex
- (24) *Krananda semihyaline* Moore スカシエダシヤク (85・531)  
81-9-25 (G) /ex
- (25) *Apocleora rimosa* Butler クロクモエダシヤク (89・537)  
81-9-16 (G) /ex
- (26) *Heterarmia charon* Butler ナミガタエダシヤク (89・537)  
77-5-19 (G) /ex 77-5-20 (G) 2exs
- (27) *Hypomecis crassestrigata* Christoph フトオビエダシヤク (93・544)  
82-4-25 (Y) /ex 82-4-29 (Y) 2exs  
82-5-5 (Y) /ex 82-9-9 (G) /ex
- (28) *Hypomecis roboraria* Denis & Shiffermuller ハミスジエダシヤク  
82-9-8 (G) /ex (92・542)
- (29) *Hypomecis punctinalis* Scopoli ウ斯巴ミスジエダシヤク (92・543)  
77-4-11 (G) 2exs 77-4-25 (G) /ex  
77-5-24 (G) /ex
- (30) *Microcalicha sordida* Butler シタクモエダシヤク (92・544)  
81-9-9 (G) /ex 82-5-11 (Y) /ex  
82-9-9 (G) /ex
- (31) *Ophthalmitis albosignaria* Bremer & Grey ヨツメエダシヤク (93・544)  
81-9-9 (G) /ex
- (33) *Ectropis excellens* Butler オオトビスジエダシヤク (95・546)  
77-4-11 (G) /ex 77-4-27 (G) /ex  
77-5-14 (G) /ex 77-5-26 (G) /ex
- (34) *Cusiala stipitaria* Oberthur セプトエダシヤク (94・546)  
82-4-25 (Y) /ex
- (35) *Thinopteryx crocoptera* Kollar キマダラツバメエダシヤク (98・551)  
81-9-16 (G) /ex
- (36) *Apochima juglansiararia* Graeser オカモトトゲエダシヤク (99・554)  
77-3-7 (昼ヶ浦) /ex 高雄義行採集

- (37) *Biston robustus* Butler トビモンオオエダシヤク (100・556)  
77-3-15 (TARUGAHAMA) / ex
- (38) *Pachvligia dolosa* Butler アトジロエダシヤク (101・557)  
77-3-15 (TARUGAHAMA) 3 exs
- (39) *Planociampa antipala* Prout ヒロバトガリエダシヤク (101・558)  
77-3-7 (HIRUGAURA) 2 exs 高雄義行採集 対馬新記録。  
翅形など明らかに図鑑のものと異なり、別亜種の可能性もある。
- (40) *Descoreba simplex* Butler ハスオビエダシヤク (101・558)  
77-3-7 (HIRUGAURA) 2 exs 高雄義行採集
- (41) *Menophra senilis* Butler ウスクモエダシヤク (102・560)  
77-4-11 (G) 3 exs 81-9-15 (G) / ex  
82-4-25 (Y) / ex
- (42) *Cotta incongruaria* Walker ヨスジキエダシヤク (105・564)  
82-6-6 (Y) / ex
- (43) *Odontopera arida* Butler エグリツマエダシヤク (104・564)  
77-4-25 (G) 4 exs
- (44) *Zethenia albonotaria* Bremer モンシロツマキリエダシヤク (105・565)  
77-5-2 (G) / ex
- (45) *Pareclipsis gracilis* Butler ツマキリウスキエダシヤク (105・566)  
77-4-24 (G) / ex 77-5-7 (G) / ex  
77-5-26 (G) / ex
- (46) *Auaxa cesadaria* Walker キエダシヤク (105・566)  
82-5-30 (Y) / ex
- (47) *Eilicrinia parvula* Wehrli キイロミミモンエダシヤク (105・566)  
81-6-6 (Y) / ex 82-8-3 (G) 4 exs
- (48) *Heterolocha arirtonaria* Walker ウラベニエダシヤク (107・570)  
82-5-4 (Y) / ex
- (49) *Ourapteryx nivea* Butler ウスキツバメエダシヤク (108・572)  
77-5-14 (G) / ex 82-6-15 (Y) / ex.  
82-6-8 (Y) 2 exs
- (50) *Ourapteryx maculicaudaria* Motschulsky シロツバメエダシヤク (108・573)  
81-9-25 (G) / ex
- (51) *Scopula* sp.  
81-9-23 (G) / ex
- (52) *Abraxas* sp.  
77-5-3 (G) / ex 77-5-20 (G) / ex  
81-9-25 (G) / ex 82-5-4 (Y) / ex  
82-9-8 (G) 2 exr 82-9-13 (G) / ex

LASIOCAMPIDAE カレハガ科

- (1) *Malacosoma neustria* Linnaeus オビカレハ (112・581)  
82-6-6 (Y) / ex
- (2) *Odonestis pruni* Linnaeus リンゴカレハ (112・581)  
81-9-15 (G) / ex
- (3) *Dendrolimus spectabilis* Butler マツカレハ (114・583)  
81-9-10 (G) / ex

SATURNIIDAE ヤママユガ科

- (1) *Antheraea yamamai* Guerin & Meneville ヤママユ (120・588)  
81-9-22 (G) / ex

SPHINGOIDEA スズメガ科

- (1) *Agrius convolvuli* Linnaeus エピガラスズメ (127・591)  
81-9-16 (G) / ex  
本種以外に、クロメンガタスズメを目撃しているが標本がないので  
記録は保留しておく。

NOTODONTIDAE シャチホコガ科

- (1) *Quadricalcarifera subgeneris* Strand ホリシャシャチホコ (138・607)  
82-5-11 (Y) / ex
- (2) *Cnethodonta grisescens* Staudinger バイバラシロシャチホコ (139・609)  
81-9-15 (G) / ex 82-6-10 (Y) / ex  
82-9-9 (G) / ex
- (3) *Disparia variegata* Wileman ホソバネグロシャチホコ (140・611)  
82-5-11 (Y) ♂ exs
- (4) *Phalera* sp. ツマキシヤチホコの一つ (140・612~613)  
82-8-6 (Y) / ex
- (5) *Urodonta arcuata* Alpheraky ユミモンシャチホコ (141・613)  
82-3-下旬 (Y) / ex 対馬新記録
- (6) *Peridea graeseri* Staudinger イシダシャチホコ (143・618)  
82-8-3 (G) / ex 対馬新記録
- (7) *Suzukiana cinerea* Butler スズキシヤチホコ (144・619)  
82-5-11 (Y) ♂ exs
- (8) *Hiradonta takaonis* Matsumura タカオシャチホコ (144・621)  
82-6-28 (Y) / ex
- (9) *Eguria ornata* Oberthur トビギンボシシャチホコ (146・626)

82-6-28 (Y) / ex

(10) *Pterostoma sinicum* Moore オオエグリシヤチホコ (146・626)

81-9-9 (G) / ex 81-9-10 (G) / ex

ARCTIIDAE ヒトリガ科

(1) *Eilema* sp. (155・639~642)

81-4-29 (Y) / ex

(2) *Eilema laevis* Butler ツマキホソバ (155・640)

82-5-22 (Y) / ex 82-8-3 (G) / ex

(3) *Lithosia quadra* Linnaeus ヨツボシホソバ (156・643)

82-6-15 (Y) / ex

(4) *Parasiccia altaica* Lederer ホシオビコケガ (156・646)

81-9-16 (G) / ex

(5) *Miltochrista pallida* Bremer ハガタキコケガ (157・648)

82-5-23 (Y) / ex

(6) *Stigmatophora flava* Bremer & Grey ゴマダラキコケガ (157・649)

82-9-7 (Y) / ex

(7) *Asuridia carnipicta* Butler スジマガリベニコケガ (157・649)

82-6-7 (Y) / ex 82-6-10 (Y) / ex

日本では対馬特産種。

(8) *Miltochrista striata* Bremer & Grey スジベニコケガ (157・649)

82-5-5 (Y) / ex 82-6-15 (Y) 2 exs

82-9-13 (G) / ex

(9) *Spilosoma seriatopunctata* Motschulsky スジモンヒトリ

81-9-16 (G) / ex 82-9-13 (G) / ex (158・651)

(10) *Spilosoma flammeola* Moore アカヒトリ (159・652)

82-9-7 (Y) / ex

(11) *Spilosoma niveum* Menetries シロヒトリ (160・653)

81-9-9 (G) 2 exs

(12) *Spilosoma lubricipeda* Linnaeus キハラゴマダラヒトリ

82-4-22 (Y) / ex 82-4-29 (Y) / ex (160・653)

(13) *Rhyparioides subvarius* Walker ヒメベニシタヒトリ (160・655)

82-6-6 (Y) / ex

NOCTUIDAE ヤガ科

(1) *Brvophila parva* Sugi コイチモジキノコヨトウ (163・683)

81-9-14 (G) / ex



- (2) *Helicorerpa armigera* Hubner オオタバコガ (168・686)  
82-8-3 (G) / ex
- (3) *Agrotis ipsilon* Hufnagel タマナヤガ (169・689)  
81-9-13 (G) / ex
- (4) *Agrotis segetum* Denis & Schiffermuller カブラヤガ (169・690)  
81-9-18 (G) / ex 82-9-12 (G) / ex
- (5) *Diarsia deparca* Butler コウスチャヤガ (170・695)  
82-9-13 (G) / ex
- (6) *Diarsia canescens* Butler オオバコヤガ (171・695)  
81-9-9 (G) / ex
- (7) *Xestia stupenda* Butler マエキヤガ (172・699)  
81-9-15 (G) 2exs 81-9-18 (G) 2exs
- (8) *Sideridis unica* Leech ヒメムラサキヨトウ (174・706)  
81-9-25 (G) / ex
- (9) *Protomisejia bilinea* Hampson フタスジヨトウ (174・707)  
82-8-3 (G) / ex 82-9-8 (G) / ex  
82-9-13 (G) / ex 対馬新記録
- (10) *Mythimna turca* Linnaeus フタオビキヨトウ (176・713)  
81-9-14 (G) / ex 82-5-30 (Y) / ex
- (11) *Pseudaletia separata* Walker アフヨトウ (177・718)  
81-9-25 (G) / ex 82-9-13 (G) / ex
- (12) *Aletia consanguis* Guenee マメチャイロキヨトウ (177・718)  
81-9-25 (G) / ex
- (13) *Nonagria turpis* Butler テンオビヨトウ (184・750)  
82-4-29 (Y) / ex
- (14) *Archanara* sp. (185・750~751)  
82-6-10 (Y) / ex 82-6-15 (Y) / ex
- (15) *Olivenebula oberthueri* Staudinger ツシマキシタヨトウ (186・756)  
81-9-23 (G) / ex
- (16) *Euplexia lucipara* Linnaeus アカガネヨトウ (186・757)  
77-4-22 (G) / ex 77-4-27 (G) / ex  
82-4-22 (Y) / ex 82-5-4 (Y) / ex
- (17) *Axylia putris* Linnaeus モクメヨトウ (187・761)  
81-9-25 (G) / ex 82-9-12 (G) / ex
- (18) *Spodoptera litura* Fabricius ハスモンヨトウ (188・764)  
81-9-15 (G) / ex 81-9-25 (G) / ex

- (19) *Spodoptera exigua* Hubner シロイチモジヨトウ (188・764)  
81-9-14 (G) / ex
- (20) *Spodoptera* sp.  
81-9-25 (G) 2 exs
- (21) *Pseudaletia separata* Walker アワヨトウ (177・718)  
81-9-25 (G) / ex
- (22) *Athetis* sp.  
81-9-25 (G) / ex
- (23) *Athetis stellata* Moore ヒメサビスジヨトウ (188・767)  
82-5-4 (Y) / ex
- (24) *Cosmia affinis* Linnaeus ニレキリガ (190・772)  
82-9-12 (G) / ex
- (25) *Cosmia achatina* Butler シマキリガ (190・773)  
77-6-11 (G) / ex
- (26) *Nipponyx segregata* Butler チャオビヨトウ (191・779)  
82-5-30 (Y) / ex 対馬新記録
- (27) *Dvsmijichia gemella* Leech モンオビヒメヨトウ (191・782)  
81-9-16 (G) / ex 81-9-23 (G) / ex
- (28) *Callopietria albolineola* Graeser シロスジツマキリヨトウ  
81-9-18 (G) / ex (192・786)
- (29) *Sphragifera biplaga* Walker コマルモンシロガ (192・787)  
82-5-4 (Y) / ex
- (30) *Ariolica argentea* Butler ギンボシリング (195・801)  
81-4-29 (Y) / ex
- (31) *Pseudoips sylpha* Butler アカスジアオリング (195・801)  
82-4-22 (Y) / ex 82-6-28 (Y) / ex
- (32) *Oruza glaucotorna* Hampson モンシロクルマコヤガ (196・810)  
81-9-23 (G) / ex
- (33) *Lithacodia pygarga* Hufnagel シロフコヤガ (197・816)  
82-5-4 (Y) / ex
- (34) *Ozarba punctigera* Walker ホシコヤガ (198・823)  
82-9-9 (G) 2 exs
- (35) *Abrostala* sp. マダラウワバの一種 (198・827~828)  
81-9-14 (G) / ex 82-9-13 (G) / ex  
イラクサマダラウワバと思われる。

- (36) *Macdunroughia purissima* Butler ギンモンシロウワバ (199・829)  
 77-4-11 (G) / ex 77-4-25 (G) / ex  
 77-5-26 (G) / ex 82-6-7 (Y) / ex
- (37) *Plusia festucae* Linnaeus イネキンウワバ (199・832)  
 81-9-16 (G) / ex
- (38) *Trichoplusia ni* Hubner イラクサギンウワバ (200・834)  
 82-9-13 (G) / ex
- (39) *Acanthoplusia agnata* Staudinger ミツモンキンウワバ (200・836)  
 82-9-8 (G) / ex
- (40) *Ctenoplusia albostriata* Bremer & Grev エゾギクキンウワバ  
 (200・836)  
 81-9-16 (G) / ex 81-9-18 (G) / ex  
 81-9-25 (G) / ex
- (41) *Chrysodeixis eriosoma* Doubleday イチジクキンウワバ (200・837)  
 81-9-15 (G) / ex 81-9-25 (G) / ex
- (42) *Melapia japonica* Ogata クロスジユミモンクチバ (206・850)  
 77-6-11 (G) / ex
- (43) *Perinaenia accipiter* Felder & Rogenhofer モクメクチバ  
 (210・855)  
 77-3-17 (G) / ex
- (44) *Anomis flava* Fabricius ワタアカキリバ (211・857)  
 81-9-23 (G) / ex
- (45) *Oraesia excavata* Butler アカエグリバ (212・862)  
 82-6-16 (Y) / ex
- (46) *Dinumma deponens* Walker ウスツマクチバ (213・864)  
 81-9-18 (G) / ex
- (47) *Hypersyroides submarginata* Walker オオシロテンクチバ  
 (214・867)  
 81-9-13 (G) / ex
- (48) *Pangrapta trimantesalis* Walker ウンモンツマキリアツバ  
 (218・876)  
 82-4-25 (Y) / ex 82-6-10 (Y) / ex
- (49) *Pangrapta* sp. ツシマツマキリアツバ (218・877)  
 82-6-10 (Y) / ex 1977年7月26日 / ♀の記録のみ。
- (50) *Hypostrotia cinerea* Butler マエジロアツバ (229・883)  
 82-5-22 (Y) / ex
- (51) *Brevipecten consanguis* Leech フタクロアツバ (219・887)  
 82-8-3 (G) / ex
- (52) *Paragona inchoata* Wileman ウスグロセニジモンアツバ (219・889)  
 82-5-12 (Y) / ex

- (53) *Harita belinda* Butler ナカジロアツバ (220・902)  
81-9-23 (G) / ex
- (54) *Hypena frionalis* Guenee タイワンキシタアツバ (221・904)  
81-9-16 (G) / ex
- (55) *Hypena indicatalis* Walker トビモンアツバ (222・908)  
82-4-25 (Y) / ex
- (56) *Hypena* sp. (—・903~909)  
82-9-9 (G) / ex
- (57) *Bomolocha stvgiara* Butler ヤマガタアツバ (223・910)  
82-6-6 (Y) / ex 81-9-8 (G) / ex
- (58) *Bomolocha bioloralis* Graeser マルモンウスツマアツバ (223・912)  
81-9-16 (G) / ex 82-4-25 (Y) / ex
- (59) *Adrapsa simplex* Butler シラナミクロアツバ (224・914)  
82-9-9 (G) 2 exs
- (60) *Trotosema sordidum* Butler フサキバアツバ (224・918)  
81-9-13 (G) / ex 82-9-9 (G) / ex
- (61) *Hadennia nakatanii* Owada ヒメハナマガリアツバ (224・918)  
81-9-16 (G) / ex
- (62) *Paracolax orveri* Butler シロテムラサキアツバ (225・921)  
82-9-5 (Y) / ex
- (63) *Nodaria tristis* Butler ヒゲブトクロアツバ (225・923)  
81-4-29 (Y) / ex 81-9-9 (G) / ex  
82-9-8 (G) 3 exs
- (64) *Simplicia pseudoniphona* Sugi ニセアカマエアツバ (225・924)  
81-9-14 (G) / ex 82-6-16 (Y) / ex
- (65) *Zanclognatha curvilinea* Wileman & South ホンドコブヒゲアツバ  
82-6-6 (Y) / ex 82-9-8 (G) / ex (225・926)
- (66) *Zanclognatha tarsipernalis* Treitschke ヒメコブヒゲアツバ  
82-5-5 (Y) / ex (226・927)
- (67) *Herminia remoralis* Fabricius クロスジアツバ (226・930)  
81-9-23 (G) / ex
- (68) *Heeminia tarsicrinalis* Knoch トビスジアツバ (226・931)  
82-8-3 (G) / ex
- (69) *Stenhypena* sp. キイロアツバの一種 (226・932)  
82-4-25 (Y) / ex
- (70) *Hipoepa fractalis* Guenee オオシラナミアツバ (226・933)

以上、ハマキガ科 / 種、マダラガ科 2 種、イラガ科 / 種、マドガ科 / 種、メイガ科 2 / 種、カギバガ科 3 種、トガリバ科 / 種、シャクガ科 5 2 種、カレハガ科 / 3 種、ヤママユガ科 / 種、スズメガ科 / 種、シャチホコガ科 / 0 種、ヒトリガ科 / 3 種、ヤガ科 7 0 種の合わせて / 8 0 種を記録しておく。

ただし、この中には先に述べたような理由および筆者の浅学のため、同定できないものもあえて含めておいた。蛾類は蝶類などと違って外見上では区別できない近似種も多く、同定に正確を期すには、顕微鏡による交尾器の精査が必要となる。そこで少しでも疑問の残るものは、( 属名 + sp. ) の形で目録に示した。

また、今回報告したものは、まだ所蔵標本の一部であり、時間の関係で未整理のものが残されているが、次回にゆずりたいと思う。

( 峰町立志多賀小学校 )

HITOTSUBATAGO NO. 4

---

タイコウチの記録

---

浦田明夫

対馬のタイコウチは、長崎昆虫同好会誌 NO. 46 に筆者により報告されたのが最初の報告である。先般、淡水生物採集を対馬高校生と共に実施した折、本種が採集されたので記録報告しておきたい。

タイコウチ	4 exs.
採集地	美津島町久須が浜
採集者	対馬高校生物部 ( 浦田保管 )
採集日	1986年10月28日

( 県立対馬高等学校 )

ナガサキアゲハの記録 浦田明夫

対馬で記録されるアゲハチョウの類では比較的個体数も少なく、採集された場所も限られている。対馬で採集されたものは / 95 / 年7月26日豆蝋 / ♀ の記録が初めてのものである。その後、久原や巖原、有明山で採集されている。本種の幼虫は栽培植物のミカン科植物を食 植物としているところから、筆者はかつて ( 1987 ) 対馬における分布は、自然分布として以前から分布していたのではなく、何らかの方法により、人為的な移入によるものではないかと推定し、ミカンの栽培とともに分布を拡大しているものと考えている。

ところで今年 ( / 986 ) 9月 / 6日、美津島町内での調査の折、鶏知トンネルで本種の♀を発見し、クサギの花に止まり吸蜜することをじっくり観察することができた。後翅白斑が大きく発達したこの個体は、筆者が長崎市で採集した20数頭の雌よりもずっとみごとな個体で、西表島で採集した個体にも匹敵するものであった。久しぶりのナガサキアゲハでしばしうっとりした。

ナガサキアゲハ 1♀  
 採集地 美津島町鶏知トンネル入口  
 採集日 1986年9月16日  
 採集者 浦田明夫

( 県立対馬高等学校 )



- (17) マメコガネ 7月8日 1♂1♀ 志多賀 KO  
 (18) クロコガネ 6月19日 lex 志多賀ゆずか橋 KO  
 (19) シラホシハナムグリ 7月14日 lex 志多賀 KO  
 7月27日 lex 志越 HO  
 (20) コアオハナムグリ 7月10日 lex 志越 KO  
 (21) ムラサキハナムグリ 7月27日 lex 志越 HO  
 (22) ツシマカブリモドキ 11月16日 lex 志多賀 KO  
 (23) ツヤケシナガゴミムシ 10月4日 lex 志多賀 KO  
 (24) キマワリ 7月21日 lex 佐賀 KO  
 (25) ユミアシオオゴミムシダマシ 10月9日 lex ゆずか橋 KO  
 (26) ハスジカツオゾウムシ 7月8日 志多賀 KO  
 (27) ウバタマムシ 7月13日 lex 鹿ノ浦 KO  
 (28) ヤマトタマムシ 9月12日 志多賀ゆずか橋 KO

### 3. その他のコン虫

- (1) ヒメスズメバチ 6月19日 lex 志多賀ゆずか橋 KO  
 (2) アカスジカメムシ 7月13日 lex 鹿ノ浦 KO  
 (3) アブラゼミ 8月16日 1♂ 志越 HO

( 峰町立志多賀小学校 )

HITOTSUBATAGO NO. 4

---

## こ ん 虫 採 集

---

大 石 恵 士

ぼくが五年生になって入ったクラブは、生物クラブです。

最初のクラブの日には、三角紙入れの作り方をなりました。三角紙入れとは、チョウやトンボを入れるための紙です。次のクラブの日から、さっそく虫とりに行きました。場所は、学校の近くの山でした。そこで、とる前に、とり方をなりました。木の葉やえだにくっついていいる虫は、あみを葉にすっぽりかぶせて、ゆすると、ひとりでにあみの中に落ちてきます。このとり方では、おもにこう虫をとります。



また、先生の車でゆずか橋まで虫とりに行くこともあります。

ある時、ぼくは「ハンミョウ」という虫をつかまえました。ぼくが先生に「これ、ねうちあつとですか。」と聞いたら、先生が、「おう、こりゃあ、ねうちあつとよ。」と言われました。さっそく家に帰り、こん虫図かんで調べてみました。その本には、ハンミョウのことについて、体長20mmから22mm、色どりが美しい。晴れた日に活動し、小さな虫を食べる。庭や道などにいて人が近づくととびたつが、すぐ地面におり、また近づくととびたつので「みちおしえ」という名まえもあると書いてありました。

そのあと、なにげなくこん虫図かんの最後の方を見てみると、採集の心がまえというのが書いてありました。ぼくは、こん虫採集には心がまえがいるのかと思いながら読んでみました。こん虫採集をするのは、こん虫の形や種類、生活のしかた、ほかの動物や植物との関係などを知るためです。ただ、数だけたくさん集めたり、きれいなチョウだけとって楽しんだりするのは正しい採集とはいえず、理科の勉強にもなりません。こん虫採集するにはこの心がまえをわすれず、なんのために採集するのか、はっきり決めてから始めましょう。これがはっきりしないと、ただ虫を集めることになり、あとでいやになって捨てたり、せっかくとった虫をそのままにしておいて無だにします。これではむだに生き物の命をとったことになりますと書いてありました。

ぼくは今までどうだろうか、そんな悪い採集のしかたをしていなかっただろうかと考えてみました。そして、あつと思いました。ぼくもきれいなチョウとか、めずらしいものを何も考えずにただとっていたり、気にいらぬ虫はその場で殺したり捨てたりしていたことに気づきました。

こんどからは、むだに虫をころしたりせず、きちんとほかの動物や植物との関係なども調べながら、こん虫採集をしたいと思ひます。

( 峰町立志多賀小学校 5年 )

## 対馬生物研究会会則

第1条（名称） 本会是对馬生物研究会と称する。

第2条（目的） 本会是对馬の生物の研究、観察、調査を通して自然への理解を深め、自然保護意識の高揚をはかり、その情報や知識の普及、会員相互の親ほくをはかることを目的とする。

第3条（活動） 本会は第2条の目的を達成するために次の活動を行う。

- 1 対馬の生物の分布、生態に関する調査
- 2 会誌「ヒトツバタゴ」連絡誌「ひとつばたご通信」の発行
- 3 研修会、談話会の開催
- 4 各専門分野の研究の促進、情報交換
- 5 自然観察会の開催、指導
- 6 自然保護育成への働きかけ
- 7 その他

第4条（組織） 本会は本会の目的および活動に賛同する者をもって組織し、年令、職業等を一切問わない。

第5条（会費） 会員は別に定める会費を納めるものとする。

第6条（役員） 本会に次の役員を置く。

会長 / 名 運営委員 若干名

役員は会員の中から、その任期が終了する前の総会において選出され、会の基本方針に従って会務を執行する。任期は3年とし、再任を妨げないが本人の意向を尊重する。

第7条（会計年度） 会計年度は / 月 / 日にはじまり / 2月3 / 日に終わる。

- 付則
- 1 本会の運営費は会費および寄付金等による
  - 2 本会の年会費は / 000円とする
  - 3 本会の事務局を次の場所に置く  
下県郡巖原町東里120 県立対馬高等学校校内
  - 4 本会則は昭和6 / 年 / 月 / 日より施行する



## 目

## 次

○ 対馬のシンボルマークとしての 鳥花木の選定について . . . . .	浦田明夫 . . . . .	1 ~ 3
・カケスのなきまね . . . . .	浦田明夫 . . . . .	3
○ コクマルガラスの記録 . . . . .	浦田明夫 . . . . .	4
○ ホオジロの擬傷 . . . . .	浦田明夫 . . . . .	5
・ヤマショウビンの記録 . . . . .	浦田明夫 . . . . .	6
・対馬におけるムクドリの記録 . . . . .	浦田明夫 . . . . .	6
○ 壱岐のツル便り . . . . .	浦川虎郷 . . . . .	7
○ 道徳教材 「アオサギよいつまでも」 . . . . .	平山俊章 . . . . .	8 ~ 10
○ 木坂海神神社社  に ヒゼンマユミ . . . . .	佐伯正発 . . . . .	11 ~ 13
・ツレサギソウの発見 . . . . .	国分英俊 . . . . .	13
○ 志多賀川流域の水生昆虫 . . . . .	小宮秀光 . . . . .	14 ~ 15
○ 対馬の蛾・分布資料 (1) . . . . .	境 良朗 . . . . .	16 ~ 28
・タイコウチの記録 . . . . .	浦田明夫 . . . . .	28
○ ナガサキアゲハの記録 . . . . .	浦田明夫 . . . . .	29
○ 志多賀の昆虫 . . . . .	大石恵士・岡野仁史 中村栄作 . . . . .	30 ~ 31
・児童作文「こん虫採集」 . . . . .	大石恵士 . . . . .	31 ~ 32
・対馬生物研究会会則 . . . . .	編集部 . . . . .	33
・編集後記 . . . . .		34

表紙 「ツシマウラボシシジミ」 平山俊章会員 作